

## 2023年度 大学入学共通テスト 数学ⅡB(本試験) 分析

試験時間60分

難易度	出題分量	出題傾向
<p>易化 典型的な問題が多く、計算量も減少しており、解きやすい問題であった。</p>	<p>変化なし ページ数としては増えているが、計算量が減っているため昨年度と比べて変化なし。</p>	<p>日常生活を題材とした問題が増加。また、『三角関数』では和積・積和変換を題材としたことが目新しい。</p>
<p><b>総評</b> 昨年に比べページ数が増加したものの、計算量の減少及び問題の意図をとらえやすくなったことから、取り組みやすいと感じた生徒も多く存在したであろう。近年としては非常に計算量の少ない出題であった。また、銀行の預貯金の複利計算や桜の開花日時、ピーマンの重さなど、日常に即した問題が多く出題された。</p>		

### 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	[1]三角関数 [2]指数関数・対数関数	30点	[1]和積・積和変換を題材にした問題であり、変換式の意味が分かれば容易であった。 [2]指数⇔対数の変換が出来れば容易に解けた。
第2問	[1]微分法 [2]積分法	30点	[1](2)は円錐に内接する円柱の問題であるが、数値は(1)を利用することが分かれば容易に解ける。 [2]積分することにより総数が求まることが理解できていれば、積分計算もなく容易に解ける。
第3問	確率分布	20点	典型的な問題であり、計算量も少なく、容易に解ける問題。
第4問	数列	20点	複利計算の典型的な問題。複利計算の原理が理解できていれば容易に解ける。
第5問	空間ベクトル	20点	三角錐に関する問題。内分点や垂直＝内積0等の内積計算、最後は(i)が利用できることに気づけば容易に解答できる。

### 受験生へのワンポイントアドバイス

日常に即した問題が非常に多く、複利計算などの実生活にて使われる数学の知識を用い、考察することができるかを問われた試験内容が見られた。公式の暗記ではなく、内容理解を徹底することが攻略の鍵である。積分とは何をやっているのか、例えば速度×時間＝距離なので速度を時間で積分することで距離が求まるなど、教科書や問題集のコラム等に関しても、目を通しておくことが必要であり、過去の模擬試験等、様々な問題にチャレンジして、演習量を増やして欲しい。